



◆交通手段 JR京橋駅南口すぐ。京阪本線京橋駅から南東400m、大阪市営地下鉄長堀鶴見緑地線京橋駅から同600m。

真夏の日差しが降り注ぐ中、高架上をオレンジ色の電車が通り過ぎる。JR京橋駅南口(大阪市城東区)。「京橋駅爆撃被災者慰霊碑」は、南を流れる寝屋川に向かって立つ。

1945年8月14日昼。終戦前日、大阪最後の空襲となった第8次大空襲は、東洋一の軍事工場と呼ばれた「大阪陸軍造兵廠(砲兵工廠)」が標的だった。寝屋川南部から大阪城東部一帯の約820万平方メートルを占め、現在の鶴見区ほどの広さがある巨大施設。攻撃は周辺にも及び、川を隔てた京橋駅にも数発のミサイルが落とされた。

駅周辺で身元の判明した遺体だけでも230人余り。犠牲者は300人とも600人とも言われる。当時、空襲警報が出る、電車が最寄り駅で止まる、乗客を下りさせた。駅は職員電車から降ろされた人たちがあふれ被害が膨らんだ。13歳だった吉田幸子(80)は大阪市。は施設の連隊に入營する長兄の見送り(母と)一緒に大阪駅に向かう途中、職員から下

碑にきく

9

京橋駅爆撃被災者慰霊碑

(大阪市城東区)

近代大阪の都市形成を研究するため、戦争で標的となった場所や戦跡の検証、体験者の証言集めを重ねてきた。

大阪大空襲は1945年3月13、14日の第1次に始まり、8月14日の第8次まで続いた。大阪陸軍造兵廠は度々標的になったが、第7次までは、掘野不良などで壊滅的な被害を免れていた。

「最大の軍事拠点が狙われるのは予想されることだが、日本のボツタム宣言受諾の

終戦間際の大空襲 理不尽

大阪電気通信大学教授

小田 康徳さん 66

通告を米軍が知っていたとしてもおかしくないタイミング。最後の攻撃にどれほどの意味があったのか。多くの人が命を落とした事実を思えば、戦争の理不尽さを痛感する。「空襲の被災者は、空が青いと怖い」「花火を見られない」

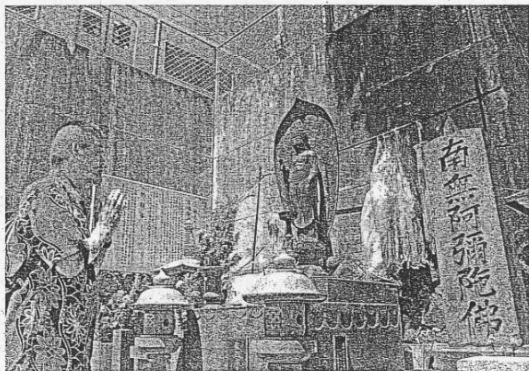


おた・やすのり 1946年香川県生まれ、兵庫県川西市在住。日本近代史「都市公害の形成」など著書多数。文学博士。

と語る。「終戦間際、白昼爆撃が当たり前となり、脳裏で晴天と爆撃が結びついていたのだ。花火は青と光が爆撃を連想させる」と推し量る。

自らは戦後世代。「青い空や花火が美しいと思える生活がどれほど尊いのか。今の大阪はあの頃の苦難の上に築かれた。歴史を語り継ぎ、戦争を知らない者が思いを共有し続けることで、悲劇を繰り返さないようにしなければならぬ」

「なご」



JR大阪環状線沿いに立つ「京橋駅爆撃被災者慰霊碑」(右端)。今も供花や千羽鶴が絶えない(大阪市城東区で)



石碑の側面に「昭和二十年八月十四日受難者供養之為」、背面に建立日と森本さんの名前が刻まれている

車するよう告げられた。サザサツ、サザサツ……。京橋駅に降り立つと、近くで大きな滝が流れ落ちるような音が響いている。爆撃の音だった。兄はくっ、母と友人で南口の駅舎下しやがみこんだ気がつく。駅舎が崩れ、がれきに埋もれていた。周囲の人に助け

しまつ。悲しく、悔しい思いは尽きない。石碑が建てられたのは、空襲の2年後。空襲時に駅に居合わせた、大東市の酒店経営森本栄一郎さんが自分で建立した。55年からは、石碑前で慰霊祭が営まれ、森本さんも83年に世界するまで毎夏参列した。長男の泰利枝さん(72)は「出経経験のあった義父は、まるで戦地のような惨状だったと話していた。『戦争なんて絶対やったらあかん』と繰り返していた」。

石碑の周りには住民らが納経塔や仏像、石灯籠を建て、手を合わせる駅利用客も少なくない。通勤で京橋駅で乗り換えていた元中学校教諭の佐藤泰正さん(75) (大阪市西成区)は疎開先

この連戦で取り上げる石碑を募集しています。連戦への「意見」「感想」もお待ちください。いずれも既読新着大阪本社社務部(フックス06・6301・0001)メール yamawake@yomuri.co.jpへ。次回は8月下旬に掲載します。